

6年生

教科	成果	課題	重点取り組み
国語	・物語文や説明文を読んで、筆者の考えを理解したり、自分なりの考えをもって書き表したりしようとしている。	◎作文や解答内の文章などで既習の漢字を使いこなせていない。 ・語彙力が少なく、定着率が低いため、文章に書き表す際に適切な言葉（語彙）が使えず、相手に思ったことが伝わらないことがある。	・作文や文章を書くときに、漢字を適宜使用するよう、例示などして指導する。 ・言葉の意味や使い方、働きなどを調べる時間を確保する（意味調べなど辞書を活用して）とともに、定着した言葉の活用を目指して、日頃からも定着した言葉を普段使いできるよう声をかけていく。
社会	・教科書・資料集の写真・映像などの資料に政治的、歴史的な意味を予想や想像するなど、高い関心を示している。 ・学習したことを基に、自分の考えを入れて、まとめることができるようになった。 ・課題に対して、分かるまで（できるまで）熱心に取り組む児童が増えた。	◎日本の地理的環境、工業、産業の特徴についての知識・理解の定着率が低い。 ・社会科の用語を活用する問いに対しての表現力に課題がある。	・国内の各地域（都道府県）の特徴が捉えられるように、地図や映像、写真などの資料を取り入れて、特徴や特色など（環境・工業・産業など）が結びつくよう指導する。 ・学習感想やまとめを書かせる場面で社会科の用語を使って文章を書くよう指導する。
算数	・課題に対する複数の解決法を考えたり友達の方法を活用して課題解決したりする児童が増えた。 ・数直線を書くことで、立式の根拠のヒントとして捉える児童が増えた。	◎小数の文章題や割合の理解に課題がある。 ・学習の定着度合いの個人差が大きい。 ・式の考え方は理解しているが、式上のかけ算・割り算の計算ミスで不正解している児童が多い。	・補習教室などを活用し、既習事項の定着を図る。 ・タブレットドリルやミライシードを活用し復習に取り組ませ、児童全体の定着度の平均化を図る。 ・引き続き文章問題中の与えられた情報を適切に使用する技能の習得のために、数直線を活用するよう指導していく。
理科	・理科への興味・関心が強く、特に、実験・観察に対して意欲的な取り組みが見られた。 ・教科書やインターネットなどを活用して写真・映像などの資料を効果的に取り入れることで知識の定着が図られた。	◎理科の専門用語を使つての解答する説明力が弱い。 ・学習の定着度が児童によって大きな差がある。	・実験・観察の時間の後、既習した理科の用語を使い、時系列から具体的に結論や考察を書かせるようにする。 ・時系列から予想や結果を考察させ、より具体的に説明できるようにする。

音楽	・歌唱では、発声の仕方を工夫して声を響かせて合唱をすることができる。 ・作詞者や作曲者の意図を歌詞や曲の構造から読み取り、それを生かして表現することができる。	◎よりよい音楽表現に向けて、思いや考えを自ら伝えることが苦手な児童が多い。 ・楽器の演奏では、技能の定着の個人差が大きい。	・抵抗なく自分の思いや考えを伝えることができるように、少人数やグループによる学習の場を設定する。 ・楽器の演奏を苦手と感じる児童には、適宜、個別への支援をする。
図工	・自分の表したいことを明確にもって主体的に取り組むことができる児童が増えた。	◎自分が表したいものに合わせ、材料や表現の仕方を造形的な視点をもって考える力を付けること。 ・発想や技能の面で個人差が大きく、活動の見通しをもつことが難しい児童がいる。	・既習事項を確認しながら、どのような表し方ができるのかを思い出し考える機会を設ける。自分の思いに合わせて選択できるよう画材や材料を多数用意する。
家庭	・積極的に取り組むことができ、特に、調理実習には、意欲的に取り組む児童が多い。	◎包丁の使い方や、調理の手順など基礎的な知識・技能が身に付いていない児童がいる。 ・基礎的な知識・技能に個人差がある。	・計画的に調理実習を行う。 ・グループ内の友達に任せるのではなく自分で学び調理するよう指導する。
体育	・運動会での表現運動など、明確な目標がある取り組みに対して、頑張ることができる。 ・ICTを活用した学習に慣れ、自分の動きや友だちの動きを客観的に見ることができる児童が多い。	◎運動技能に個人差があり、習得に時間を要する児童がいる。 ・苦手な運動に対して、粘り強く取り組む力が弱い。	・個々の運動能力の伸びが実感できるような学習活動を行う。（それぞれ能力に応じてクループ化して、同じ能力間で課題を与えて学習活動を行う） ・お互いに見合い、アドバイスをし合う時間を設定する。（振り返りカードや体育カードなどを活用することで、協力することの大切さを指導する。）
外国語	・基礎的・基本的な学習内容を理解できている児童が多い。 ・スピーチ発表やアクティビティなど活動に意欲的に取り組む児童が多い。	◎主体的に取り組もうとする児童の差が大きい。（学習内容の理解が乏しい児童が消極的である。） ・アクティビティなどの活動で消極的な児童が若干数いる。	・フィードバックタイムなどを設けて、本時に習得した語彙や文章の復習をする時間をつくる。 ・英語カフェなど外国語指導員（ALT）との日常会話のやり取りする時間を多く設定する。（学習内容の定着を図る。）